

1 治安情勢

警察による治安対策が一定の成果を挙げているものの、スリ、ひったくり等の軽犯罪は依然として多数発生している。また、リビア等近隣国における法執行機能の不全等を背景として、島嶼部を含むイタリア南部に、多数の移民が短期間で押し寄せ、特別在留許可を得た者を含む多数のアフリカ系移民が都市部に流入している。

2 日本人被害例

スリ等の被害件数については、前四半期と比較して同程度の発生状況にある。細部の被害状況については、以下のとおり。

(1) スリ 27件（7月～9月：30件）

ア ローマ市内の混み合った路面電車に乗っていたところ、ズボンのポケットのボタンが外れていたため、中を確認すると旅券・財布がなくなっていた。

イ フィレンツェ駅付近の雑貨店で会計をした後、散歩中、バッグが開いていたことから、中を確認すると旅券・クレジットカードの入った財布がなくなっていた。

ウ フィレンツェ市内を観光中、ショルダーバッグのチャックが開いていたことから、中を確認すると旅券・財布がなくなっていた。

(2) 置き引き 17件（7月～9月：16件）

ア ミラノ・ベネツィア間の電車に乗った際、網棚にバックパックを置いていたところ、目を離した隙に盗まれた。

イ フィレンツェ市内の飲食店で食事をしていたところ、椅子の背もたれに掛けていたハンドバッグを盗まれた。

ウ ローマ市内の路上で、物を取り出すためにリュックサックを置いたところ、白人男性より声を掛けられ、これに気を取られた際、別の者にリュックサックを盗まれた。

エ ローマ市内の飲食店で食事をしていたところ、見知らぬ男性から英語で話し掛けられた。これに対応した後、気付くと横の席に置いていたリュックが盗まれていた。

(3) ひったくり 1件（7月～9月：3件）

ナポリ中央駅付近の路上において、背後からバイクに乗った男性に、ショルダーバッグをひったくられた。

3 殺人・強盗等凶悪犯罪例

外国人が被害者となった事件が発生したものの、日本人の被害については

認められなかった。事件の概要については、以下のとおり。

(1) 殺人

ア 11月10日

ローマ市内エウル地区の路上において、ルーマニア人男性の刺殺体が発見された。被害者は胸部を鋭利な刃物で刺されており、現在のところ、警察が目撃者等の細部を捜査中である。

イ 11月11日

ローマ市内サン・バジリオ地区の路上において、モロッコ人男性の刺殺体が発見された。死因は、心臓を刃物で刺されたことによるものとみられている。警察が背景等の細部を捜査中である。

ウ 12月14日

ラツィオ州北東部の都市ビテルボの住宅において、83歳の男性とその妻の遺体が発見された。警察の調べによると、2遺体ともに外傷は認められないことから、窒息又は何らかの中毒により死亡に至ったものとみられている。現在のところ、両名の長男の所在が不明であることから、事情聴取のため、同名の行方を捜索中である。

(2) 強盗・窃盗

ア 10月27日

ローマ市内の銀行に、営業時間後、銃武装した強盗2名が押し入り、現金を強奪した。犯行後、同人らはスクーターにより逃走している。現在のところ、警察が細部を捜査中である。

イ 11月20日

ナポリ市内の路上において、イタリア人実業家が強盗被害に遭った。同人が私有車を運転していたところ、覆面をした2名が別車両でこれに接近・停車を要求し、銃を突きつけて金品を要求した。結果として犯人らは同人の腕時計（時価2,600ユーロ）を強奪し、逃走している。現在のところ、警察が細部を捜査中である。

ウ 12月5日

ローマ市内のショッピングモールにおいて、日中、強盗事件が発生した。警備員が、同モール内の銀行より輸送車へ現金を移動させていたところ、銃武装した強盗5名がこれを強襲した。犯人らは現金及び右車両を強奪し、現在も逃走中である。

(3) 性犯罪

ア 11月3日

ローマ市内において、14歳女性2名が、21歳男性により強姦被害を受けた。3名はインターネット上のチャットルームで知り合い、加害

男性は、被害女性らと初めて会った日に犯行に及んでいる。

なお、後日、加害男性は警察により逮捕されている。

イ 12月1日

フィレンツェ市内において、イタリア人女性が20歳のソマリア人男性より強姦被害を受けた。事件当時、加害男性は、被害女性に薬物を提供し、同人の意識が朦朧としていたところ、犯行に及んだものとみられている。

なお、後日、加害男性は警察により逮捕されている。

- 4 テロ・爆弾事件発生状況
特になし。
- 5 誘拐・脅迫事件発生状況
特になし。
- 6 対日感情の変化
特になし。
- 7 日本企業の安全に関する諸問題
特になし。